

平成27年度第5回総合教育会議 会議録						
開催日時		平成28年 2月16日(火) 午後1時30分				
開催場所		南別館 2階会議室				
会議出席状況	市長	津久井富雄		出席		
	教育委員	日原悠子		出席		
		川上聖子		出席		
		小林朋子		出席		
	教育長	植竹福二		出席		
	庶務	教育部長	奥村昌美		教育総務課長	益子正幸
		学校教育課長	月井祐二		教育総務課長	益子正幸
		教育総務課	小林真由美・渡邊政典			
	次 第					
1	開 会	午後1時30分				
2	あいさつ	市 長				
3	議 事	(1) 西原小学校の再編整備に関する平成28年度のスケジュールについて (2) 小中学校の再編整備に関する進捗状況について ～佐久山中学校と親園中学校の再編整備に関する保護者との意見交換～ (3) 小中一貫教育推進の取組について				
4	そ の 他	特になし				
5	閉 会	午後2時50分				
6	会議の要旨	次のとおり				

平成27年度 第5回大田原市総合教育会議 発言要旨

平成28年 2月16日(火)

開会：午後1時30分

○教育部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第5回 大田原市総合教育会議を開会いたします。
私は教育部長の奥村でございます。本日の進行を務めさせていただきます。
初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。

○市長 1月27日に教育再生首長会議に出席しましたので、概要を報告いたします。当初は13、4首長で始まりましたが、現在は120程度の首長が参加しております。大田原市においては、特に教科書採択について評価をいただいております。新しい歴史教科書を採択できたことは賛否はあると思いますが、先駆的な取り組みであると評価されております。

同日、総理官邸を表敬訪問し、安倍総理より教育の再生が、地方の再生の根本であると激励され、地方の教育行政については、いじめ防止、教育委員会の改革など実施してきたが、理念だけの改革に留まらず、実践し成果を実感できるようにしてほしいとお言葉をいただき、地方の特色ある教育によって人口減少を食い止め、地方創生の力になってほしいということであります。

本市では、昨年10月に教育長の交代をもって、新制度への移行が完了しております。引き続きさまざまな教育課題に真摯に向き合い教育委員会とともに力を合わせていきたいと思っております。

○教育部長 ありがとうございます。

○教育部長 それでは、次第の3 議題について協議していただきます。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。

○市長 円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしく願いいたします。
本日の議題は次第3に記載のとおりでありまして、
・西原小学校の再編整備に関する平成28年度のスケジュール
・小中学校の再編整備に関する進捗状況
・小中一貫教育推進の取組
の3件について取り上げ、それぞれの概要等についてご説明申し上げます。

説明の後、皆様からご意見、ご感想をお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしく願いします。
概要等について、事務局で一括して説明をお願いします。

○教育総務課長

平成29年4月からの学区再編整備完全実施に向けて、兄弟姉妹がいる場合には、同じ小学校に通学できるとしてきたことや中学校についても選択できるといった内容で、6月下旬には保護者への説明会を実施いたします。

9月には就学時健診など始まりますので、保護者の方々には、2ヶ月程度前にはお知らせし、新しい進学先を考えていただきたいと思います。また、スクールバスの意向調査も実施してまいりたいと思います。保護者によっては、幼稚園の延長という考え方で、玄関の前まで来てほしいというような方や高学年となって通学班が編成できるようになれば必要ないという方もおります。

当面は、スクールバスの運行を実施いたしますが、概要の把握のために9月上旬を目途にアンケートを実施してまいりたいと思います。

議題の(2)であります。現在最も進んでおります、佐久山中と親園中の状況であります。保護者との意見交換を行いましたので報告いたします。初めに両校の校長・教頭と意見交換を行い、次に両校のPTA正副会長と意見交換を実施しました。1月には佐久山中の保護者全体で、3分の1強の参加があり意見交換を実施したところです。後日親園中についても同様に実施いたします。

質疑の内容ですが、親園中の施設を増改築なしに利用することは可能であるかという質問には、可能であると回答しております。

次に、2校の統合ということでなく、もっと広域に統合し、新しい校舎等の建築予定はないのかという質問がありましたが、答申を尊重し現在検討していないと回答しております。

小さな学校が大きな学校に飲み込まれ、子供たちに悪い影響はないのかという質問がありましたが、過去の例を見ても必ずしもそのようになる可能性は低いと考えており、小学校からの交流事業を通して、十分に配慮してまいりたいと回答しております。

今後1小1中が進むと子供たちにとって良い環境とは思えない、いろいろな学校から集まって、新しい友人関係を築いていくことも必要ではないか、もう少し広域で統合しても良いのではないのかという質問をいただきましたが、今回は答申が出てから時間が経過していないこともあり、あくまで答申を尊重する形で進めていきたいのでご理解いただきたいと思います。

また、統合の際には、スクールバスを運行してもらえるのかという質問については、運行を予定しておりますが、ある保護者は自転車通学を希望したいという方もおりましたので、希望者で実施できるか検討してまいりたいと回答しております。

親園中の周辺道路は狭い道が多いが道路整備は実施していくのかという質問については、境界がはっきりとせず土地の権利関係が複雑なため、できるものから実施していくという回答をしております。

○教育総務課長

特別支援学級の設置は可能かという質問については、規模が大きくなれば設置の可能性も広がるという回答をしております。

新たな中学校としてスタートする場合、校名、校章、校歌などは新設するのかという質問がありましたが、これについては、話し合いのもと準備委員会等を設置し、その中で必要となれば、過去の事例でも実施しておりますので、新設の可能性もあるかと思っておりますと回答しております。

教育委員会で答申どおり進めるのであれば、実施時期を示してはどうかという質問ですが、あくまでも保護者や地域の意見を聴取し、統合に向けた思いが醸成されることが大切であると回答したところであります。

現在在学中の児童の保護者だけでなく、これから進学していく保護者にもアンケートを実施すべきではないかという質問がありましたが、これについては早期に実施して意見を聴取してまいりますと回答しております。

今後の予定であります。親園中の保護者との意見交換、各地区へのアンケートを実施し、地域住民の方々との意見交換を経まして、統合に対する感触を見極めながら慎重に進めてまいりたいと思っております。教育総務課からは以上であります。

○学校教育課長

続いて議題（3）の小中一貫教育推進の取組についてご説明申し上げます。

教育委員会より諮問のありました小中一貫教育の導入については、これまで5回の検討委員会を実施いたしまして、来年度以降の本市のありべき姿を検討し、このたび答申がまとまりましたので、ご提案申し上げたいと思っております。

まず、国の動向ですが、平成26年7月3日開催の教育再生実行会議の提言を受け、同年12月22日開催の中央教育審議会の答申を基に本年4月1日に学校教育法の一部を改正する法律の施行によって義務教育学校の位置づけが行われることとなります。

本市のこれまでの取組ですが、合併後「小中一貫（連携）教育」ということで研究指定校を毎年1中学校区指定し、来年度で一回りすることになっております。

国の取組が進んでいることも踏まえて、本市におきましても早期に小中一貫教育に取り組むべく検討委員会を開催してまいりました。

今年度の取組ですが、計5回の検討委員会を開催し、大田原市小中一貫教育基本方針（案）を策定しまして、本日この場に報告するものでございます。

検討委員会については、松本宇都宮大学教育学部教授を委員長に様々な分野から20名お集まりいただき検討を重ねてまいりました。

P T Aの代表者などそれぞれの立場から意見を出し合い、委員長を中心に意見を取りまとめ、先進地視察ということで埼玉県熊谷市を訪問しております。

○学校教育課長

大田原市の実情にあった小中一貫教育を進めるため、まず現状の課題を整理しようということで始めました。始めに児童生徒の課題、次に教職員の課題、学校規模、保護者・地域の課題などの整理を行いました。

それぞれの課題を整理し、基本方針として、1つは小中一貫教育の目的、2つ目は目標、3つ目は主な取組内容ということで示しております。

1つ目の目標としては、「9年間を見通した教育システムを構築することにより、教職員間の相互理解を深め、この小中一貫連続した支援に取り組み、人間性や学力の向上、対人関係力の向上、さらに、これからの社会に主体的に貢献できる実践力を育成する」としております。この文言は、課題を整理のしていく中で、特に重要と思われるものを委員の皆様で検討したものであります。

次にこの目的達成のために必要な8つの目標を立てております。

- ①9年間を通して、課題解決力や物事を見通す力、さらには、将来設計力を育む。
- ②9年間を通して、主体性・自律性を育み、自己重要感を高める。
- ③9年間を通して、他者と交流・協働することで、コミュニケーションと対人関係力を育む。
- ④個への連続した支援ができる情報伝達・情報共有を推進する。
- ⑤これからの社会に必要な学力を向上させる施策を策定する。
- ⑥地域との連携を進め、地域の活性化に貢献する。
- ⑦小中保護者間のコミュニケーションを促進する。
- ⑧部活動の小中の連携を図る。

①から④については、大学教授や教員の見方が反映されており、⑦、⑧については、PTAや保護者の方の意向が反映されているように思われます。

では、目標を実現するため、具体的にどのような行動を起こしていくかと申しますと次の9項目を挙げております。

- ①9年間の教育目標の明確化
- ②9年間の市道の系統性を図ったカリキュラムを作成する。
- ③課題解決力等を育むための共同研究を行う。
- ④自己重要感を高めるための9年間を見通した達成感を味わえる教育活動を行う。
- ⑤年齢の違いを超えた児童・生徒の相互交流活動を行う。
- ⑥「児童生徒指導票」の統一形式を作成し、発達障害児等の配慮を要する児童生徒に関する情報共有を進める。
- ⑦地域の特性・人材を生かした学校と地域の交流活動を行う。
- ⑧小中PTAの融合を図り、合同の行事・事業を行う。
- ⑨小中を通じ、部活動のあり方の連携を図り、児童生徒、指導者の相互合流を行う。

○学校教育課長

特に②の系統性を持ったカリキュラムを9年間を通して実施すること、④の達成感を味わえる教育活動への期待、⑥では事務的な帳票を統一することで情報共有がスムーズに行えること、⑧では小中PTAの融合、⑨では部活動への相互交流が図れるなどが期待されております。

これらを基に平成28年度にはモデル校を指定しまして、具体的には、若草中学校の施設分離型、1中1小のパターンと金田北中学校区の施設隣接型プラス1、1中2小のパターンについて研究していきたいと思っております。

小中一貫教育の確認になりますが、基本的には2つのタイプからなり、この春施行の改正法による義務教育学校は校長が1名、学校組織も1つとなります。また、もう一つのタイプは小中にそれぞれ校長がおり、組織もそれぞれにあるというものであります。大田原市においては後者の方向性で進めてまいりたいと思っております。しかしながら、今後、統廃合が進んできたときには義務教育型の小中一貫校も視野に入れて検討してまいりたいと思っておりますので、ご承知おきいただきたいと思っております。

モデル校への期待することとして、子どもたち、教師、保護者、地域に一体感が生まれるような体制づくり、授業や部活動指導の相互乗り入れによる指導効果を高めること、全校に配備完了したICT機器を活用した会議の実施、データの共有などを進めてまいりたいと思っております。

○市長

事務局より説明が終わりましたので、委員の皆様で意見交換したいと思っております。

○川上委員

スクールバスを運行する予定ということですが、停留所の設定はどのようにするのでしょうか。

○教育総務課長

黒羽中では、現在11路線のスクールバスを運行しております。停留所は原則として、市営バスの停留所を使用しております。これらは既存の停留所ですので、警察協議や道路管理者への許可などは必要なく安全に使用しております。両郷地区のとももとバスの走っていない区域には警察と協議して、新設しております。今回の説明会についても同様に既存のバス停留所を利用するとお伝えしております。

○川上委員

部活動へのバス運行の配慮はどのように対応しておりますか。

○教育総務課長

黒羽中については、午前7時55分までに学校へ到着するようにしておりますので、特に朝練などあれば、それは保護者の送迎ということになりますが、帰りは早番、遅番の2便を運行して部活動へ配慮しているところであります。また、土曜日についても、朝は同じ時間で運行し、帰りは昼12時に一斉下校できる体制で運行しております。

○川上委員

1つの提案ですが、親園中への統合後、佐久山中の生徒たちがスクールバスを利用する際に、自転車で通学する生徒さんもいるとは思いますが、一旦佐久山中に集まって、そこから親園中へ向かうというのがあるのかと思っております。というのもドアツウドアに慣れてしまって、子供たちの足腰が弱ってしまうようなことになってはよろしくないと思っております。

- 日原委員 現在の佐久山中の保護者というより、これから進級してくる子供たちの保護者への説明会をもっと早い段階で実施してもよかったのかと思います。また、アンケートよりも実際に話し合いを持った方が良いのではないかと思いますし、地域の方々にも、区長さんや代表者の方もおりますので、説明や情報を提供していったほうがよいと思います。
スクールバスの運行については、学校までの距離を限定して実施しても良いのではないかと思います。
- 市 長 ご指摘のとおり、地域にも丁寧に説明して行ってほしいと思います。
- 深澤委員 黒羽中のスクールバスの運行に関しては、子どもたちの体力面の低下など問題になってくるかと思いますが現状は肥満傾向が多いなどあるのでしょうか。
- 教育長 黒羽小、川西小に問い合わせたことがありますが、結果的には体力面では落ちているということであります。黒羽中においては、休み時間に校庭を走るなど対応しております。私見ではありますが、統合後については、スクールバス利用については選択制の導入など検討していきたいと考えております。
なお、黒羽中についても見直しを検討中であります。
- 深澤委員 子どもたちの体力や市の財政面においても無駄を省くという意味でも、今後、スクールバスの在り方について検討が必要であると思います。
- 川上委員 それに関して、やはり統合された中学校までは徒歩なり自転車なりで集合し、バスを利用することで体力の維持もはかれるのではないかと思います。
- 車田委員 統廃合のアンケート調査ですが、要望したことが必ずしも実現しないということをお知らせしてもよいのではないかと思います。できるものとできないものはある程度事前にわかっていれば無駄なアンケート調査にならないと思うので検討願いたいと思います。
- 市 長 答申にしたがって、ある程度進めているわけでありますが、いろいろな方々の意見を集約して、市としての方針をまとめるわけでありますから、一方的にここまで決まっていますとは言い難いところであります。あくまで地域の方々の考えが一致するように気持ちの醸成が必要であり、デリケートな問題でもありますので、慎重の上にも慎重に取り組んでいきたいと思っております。
- 日原委員 住民側から申し上げるとアンケートが先ではなくで、このような答申が出まして、今後佐久山地区、親園地区の子供たちの数が10年後にはこのようになります、というような情報がほしいわけであります。そのような情報があって、じゃあ皆さんはどのようにお考えですかというようなアンケートを実施してはどうでしょうか。

- 市 長 これまで黒羽小、川西小、西原小と進んできましたが、たしかにより多くの情報を発信して、保護者、学校、地域への説明をし、アンケート調査をしても良かったのかと思います。
- 深澤委員 湯津上中学校区についても、憶測が先に出てしまっているような状況です。手順を踏んで実施してほしいですし、答申からタイムラグが生じておりますので、情報発信を適時的に行ってほしいと感じております。
- 市 長 確かに答申が出てから時間が経っておりますし、社会的な背景も変わってしまうこともあるかと思っておりますので、そこはスピード感を持って情報提供していきたい。また、議題にもありますが、小中一貫教育が進んでまいりますと統合にも影響が出てくることも予想されますので、その当たりも注視していきたいと思っております。
- 車田委員 小中一貫について、国も検討委員会も良いシステムということで進めておりますが、マイナスな面というところはないのでしょうか。
- 学校教育課長 車田委員のご指摘どおり、検討委員会でもいじめの問題については実際に意見が出ております。小学校でいじめを受けた場合、中学校でもメンバーが同じなので抜けられないのではないかという心配があることは確かであります。小中一貫教育が万能ではありませんが、小中の情報共有はスムーズに行われますので、それ以上進行することはなくなるように配慮できると思っておりますし、防げる部分や改善できる部分は多くなると思われます。
- 日原委員 1月に文科省へ研修にいきましたが、分科会において小中一貫のデメリットはどんなものがありますか、と質問しましたが、まだ課題などが出揃ってない状況であり、良い面ばかり強調している印象があります。気持ちの区切りのためにも現状では小中連携程度でもよいのではないかと思います。
- 市 長 小中一貫教育が言われるようになった背景には、小学校3、4年生の時期に部活動への参加やそれに伴う自立の意識など心の成長に関連しているのかと思います。
- 現在の6・3・3制で良いのか、見直す時期なのではないかというところからスタートし、現在手探りの状態であろうと思っております。本市においては、小中一貫型ということで進めてまいりますので、低学年においてはやさしさや情緒的な指導、高学年から中学校では社会に役立つ自立した人間の育成というような一貫性のある教育ができればよいのではないかと思います。
- 川上委員 先日学校訪問で金田地区を拝見しましたが、それぞれ専門の教科があると思っておりますので、家庭科の免許のある小学校の先生が中学校の家庭科を教えとか、中学理科の先生が小学校で実験の授業実施するなど子供たちの知的好奇心を刺激することで、その後の探究心や学力の向上にもつながるのではないかと思いますし、教師のスキルをうまく利用することでモチベーションの向上にもなると思っております。

○川上委員 また、小中の保護者が連携することで、高校生や大人たちを巻き込んで、地域愛であるとか郷土愛などが育まれてくるのではないかと期待しております。

○小林委員 西原小学校区の再編整備については、同地域の保護者として、なかなか進まないという印象もありましたし、制度が成立するまでにはたいへんなご苦勞があったということをごこれまでのお話の中で実感したとろであります。

○市 長 ありがとうございます。小中一貫教育については、だいぶご理解が進んだのではないかと思います。今後、モデル校による授業が進むにつれて、課題やメリット、デメリットについても検証しながら前向きに進めていくとうことでよろしいでしょうか。

(各委員) 了承。

○市 長 ありがとうございます。
また、佐久山、親園中学校の統合についても地域の方々への情報提供や進捗状況の説明など早い時期に実施していくとうことでよろしいでしょうか。

(各委員) 了承。

○市 長 ありがとうございます。
西原小学校再編整備の平成28年度スケジュールについてはよろしいでしょうか。

(各委員) 了承。

○市 長 それでは、議長を事務局にお返しいたします。皆様忌憚のないご意見ありがとうございました。

○教育部長 議題4 その他に移りたいと思います。委員の皆様で何かありましたらお願いいたします。

(各委員) 特にありません。

○教育部長 それでは平成28年度総合教育会議の議題について、取り上げてほしいテーマ等ございましたら、事務局へ相談していただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

○教育部長 以上をもちまして第5回総合教育会議を閉会させていただきます。
ありがとうございます。

閉会：午後2時50分